

会議名	令和7年度 サポートセンターふかふか 地域連携推進会議				
日時 場所	令和8年3月12日木曜日 13:30-15:00 ふかふか会議室				
出席者 (所属)	保護者 清井浩二様 藤本弥生様 民生委員 佐々木いづみ様 保護司 川神健司様 利用者 光野千春様 飯田誉様 事業所 管理者：西川智久 サービス管理責任者：岩田康弘				
進行	西川	時間	60分	記録	サビ菅岩田

別紙パワーポイント資料により、

地域連携推進会議の目的

法人概要及び理念

グループホーム制度の概要

現在の利用状況や課題等の説明を行い、その後グループホームの見学を実施する。

【質疑応答・感想】

藤本様

- コロナ感染時など一応は親が見なくてはならないのに、職員の皆様が対応してください大変助かっている。
- ホームでの感染対策は整っているので、親御さんが負担感を持たれなくても大丈夫ですが、利用者の皆様については、ほかの利用者の方への感染予防のため少し窮屈な気持ちもあるかもしれませんが出来るだけの対応をしたいと思います。
- 利用者にとって食べることは一番の楽しみなので引き続きよろしくお願ひしたいと思っています。うちの子は大学まで徒歩での通勤ですが痩せないのはしっかり食べているからでしょうね。
- 医療面や栄養面の観点から食事提供を工夫しているホームもありますので、安心して見守っていただけると助かります。
- 物価高騰による影響も少し理解できた。確かにいろいろなものが高くなっていて家庭でも影響出ているのは事実です。よろしければ、帰省の際に自宅で育てた野菜など持たせようと思いました。受け入れは可能なのか？農家さんから直接仕入れるのは難しいのだろうか？
- 受け入れは可能ですし、助かります。

佐々木様

- 有事の際、もしかしたら避難誘導等を手伝ってもらえる可能性があるのですが、日頃からどこに勤める誰が生活しているかなど、近隣の住民との交流を積極的にした方がよいが現状はどうか？
- 地域性もあるが近隣とのコミュニケーションをしっかりと取っているところもあればそうでもないホームもあるので、可能な限り努力していきたいと思います。地域の環境整備の日など職員はもちろん、そこに住まわれる利用者の方にも積極的に参加してもらえるように声をかけていきたいと思います。

川神様

- 食事作りの場面を見させていただいたが、非常に手の込んだ食事を提供されているので感心した。きれいに盛り付けもされていた。
- 物価高騰と食費については、非常に厳しい現実もあります。毎日ごちそうというわけにもいかないかもしれませんが、世話人の技術や工夫する力を借りながら十分な食事を提供したいと思っています。

清井様

- 食事はたまに拝見することがあるが、申し分ない内容で感心している。利用者の楽しみは食べることだと思っているので引き続きお願いしたい。
物価の高騰については、事業所としてももう少し真剣に考えていかななくてはならないのではないかと考えている。例えば、施設としての課題を保護者に伝え、家庭菜園で余った野菜などを持ち寄ってもらえるような“仕組み作り”をおこなうなど・・・。
- 物価高騰に対する処置で、食費を値上げすることで、収入を超えた負担を利用者にして頂くわけにもいかないことを事業所として理解しておく。

- 余暇について、浜田地区については、ホームの近くに公園などもあったり、いろいろな施設も整っているが、金城地区についてはふれあいジムはあるが気安く使えるような距離ではないため、体を動かしたりする機会や場所があるとよい。
- 個人的に余暇的な活動を持っておられる方もいますが、そうでない方もいらっしゃるため年に何度かという頻度になります。希望者が参加できる企画を考えたいと思います。

- こういった会（地域連携推進会議）を設定することで、運営の事や食費のことなど実態を知ることができてよかった。ほかの保護者にもこういった機会を作ること、いろいろな交流やネットワークが作れるのではないかと考えた。
- 何処かで誰かが負担を感じるような仕組みではなく、継続できるような仕組みを作ればよいと考えていますので、機会があれば参加していただければ助かります。

【法人概要】

- <法人名> 社会福祉法人いわみ福祉会
<所在地> 島根県浜田市金城町七条ハ559番地2
<代表者> 理事長 室崎富恵
<設立> 1973年(昭和48年)9月11日
<事業内容> 障がい福祉サービス事業、高齢福祉サービス事業の経営など
　　<設立経緯>

昭和49年に、浜田地区手をつなぐ親の会(現在、浜田市手をつなぐ育成会)が中心となり知的障がい者入所更生施設「桑の木園」(定員50名)を設立した。設立当初より障がい者が、地域で普通に暮らし、地域で普通に働くことができる環境を作ることを目指して活動を行ってきた。そのためには、地域や地域に住む人たちの生活も豊かにならなければと感じ、地域に還元できる作業内容や障がい者本人が地域において必要な存在だと思われるような取り組みを行ってきた。

「いわみ福祉会」の理念

ごくごく当たり前の生活を奪うことなく
人としての尊厳にふさわしいサービスを

法人設立時より掲げ続けている「5つの願い」

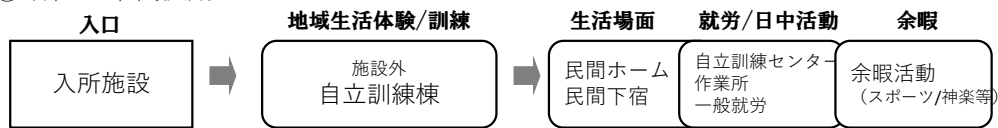
- ☆ 人として重んじられる施設づくり
- ☆ 福祉や人についての誤った考え方を変えていきたい
- ☆ この人たちの持つ可能性を追い求め続けたい
- ☆ 地域の必要性に応じていきたい
- ☆ 地域とのつながりを大切にしたい

利用者のニーズに応じた初期の取り組み

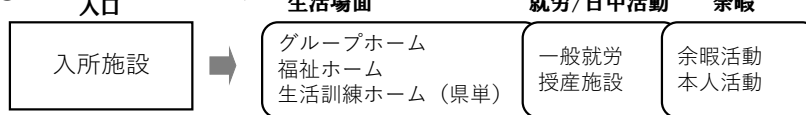
取り組み内容	民間生活ホームの開設	自立訓練センター「桑の実工房」の開設	芸能活動「芸能クラブ」
実施時期	昭和53年	昭和60年	昭和60年
地域課題	入所施設から地域への移行の手立て	就労困難者の就労訓練の場	余暇活動をする機会が少ない
対象者	知的障がい者	障がい者、障がいの疑いのある未就労者	知的障がい者
具体的な内容	地域移行のニーズに応えるため、グループホーム制度化以前に、地域の民間住宅を借りて地域で安心して暮らせる場を設置し、提供する。	地域の郷土芸能関係者の協力を得て、地元特産の和紙を使用した神楽製品の製作を通して、障がい者等が就労訓練する場を提供する。	幼児期から親しんでいた石見神楽を演じたいというニーズに応じ、クラブを設立。施設や在宅、地域の方を巻き込んで定期的に練習、活動継続してきた。
取り組みによる主な効果	入所施設から地域への移行を促進、地域の理解啓発を促進	障がい者等の就労促進、地元小中学校の社会体験の場にも提供し、地域啓発の場として貢献	神楽社中の一つとして地域に認知され、県内外のみならず国外でも演じる機会を得てきた。

入所施設から地域移行への取り組みから

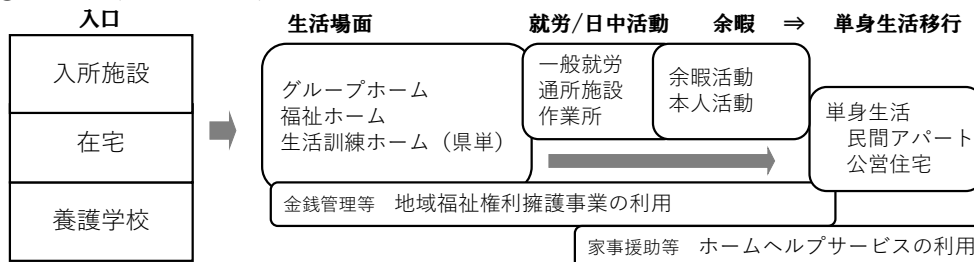
①昭和50年代後期



②平成1年～平成11年



③平成12年～平成17年



各グループホームの平均年齢等の状況

サポートセンターふかふか浜田		サポートセンターふかふか金城	
<えきまえ>夜勤/日直 現員 9名(定9) 平均年齢4.3歳 (最高齢60歳)	<ながさわ> 現員 4名(定4) 平均年齢3.4歳 (最高齢37歳)	<桑雲寮>夜勤/日直 現員 9名(定10) 平均年齢50.2歳 (最高齢69歳)	<しんがい> 現員 5名(定6) 平均年齢62.4歳 (最高齢69歳)
<かたにわ> 現員 4名(定4) 平均年齢5.2歳 (最高齢63歳)	<しんまち> 現員 6名(定6) 平均年齢4.3歳 (最高齢57歳)	<さつき>夜勤/日直 現員 6名(定6) 平均年齢57.8歳 (最高齢78歳)	<きぼう> 現員 5名(定6) 平均年齢39.4歳 (最高齢51歳)
<ヴィラとのまち> 現員 5名(定5) 平均年齢45.8歳 (最高齢56歳)	<まつばら> 現員 0名(定4) 平均年齢33.0歳 (最高齢47歳)	<さくら>夜勤/日直 現員 6名(定7) 平均年齢63.1歳 (最高齢72歳)	<なかや> 現員 4名(定4) 平均年齢46.7歳 (最高齢56歳)
定員 28 現員 28		定員 39 現員 35	

5

年齢/障害支援区分

年齢	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65歳以上	合計
浜田地区	0	6	7	5	8	2	0	28
金城地区	0	2	7	6	6	4	10	35
合計	0	8	14	14	16	7	10	63

支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	なし	合計
浜田地区	1	4	2	4	5	0	12	28
金城地区	1	4	10	9	1	0	10	35
合計	2	8	12	13	6	0	22	63

6

障害種別・日中活動場面

障害種別	知的障害	精神障害	合計
男性	47	1	48
女性	13	2	15
合計	60	3	63

日中活動	生活介護	就労継続 B型	就労継続 A型	一般就労	就労移行	その他	合計	一部介護 保険
浜田地区	4	14	4	6	0	0	28	0
金城地区	15	16	3	1	0	0	35	5
合計	19	30	7	7	0	0	63	5

7

収入

年金	障害年金1級	障害年金2級
年額	1,039,625円	831,700円
月額	86,385円	69,108円

工賃・給与	生活介護 デイケア等	就労継続支援B型	就労継続支援A型	一般就労
下限	0円	20,000円	100,000円	120,000円
上限	5,000円	50,000円	120,000円	180,000円

補助
グループホーム利用者について、10,000円を上限として補助 満たない金額については、家賃の額を補助する。 ※対象はほぼ全員になるが、収入が多い一般就労の方については対象外となっている。

利用費用

家賃			
さつきホーム	25,000円	えきまえホーム	30,000円
さくらホーム	25,000円	ヴィラとのまち	30,000円
桑雲寮	25,000円	ながさわホーム	30,000円
きぼうホーム	25,000円	しんまちホーム	25,000円
しんがいホーム	20,000円	かたにわホーム	33,000円
なかやホーム	15,000円	まつばらホーム	25,000円
※ヴィラ25,000円から35,000円			

食費		
朝食	昼食	夕食
250円	200円	400円
ホーム毎の清算で万が一余るようなことがあれば返金している。		

水光熱費	： ホーム毎の支払い（実費）
日用品費	： ホーム毎の支払い（実費）

季節食

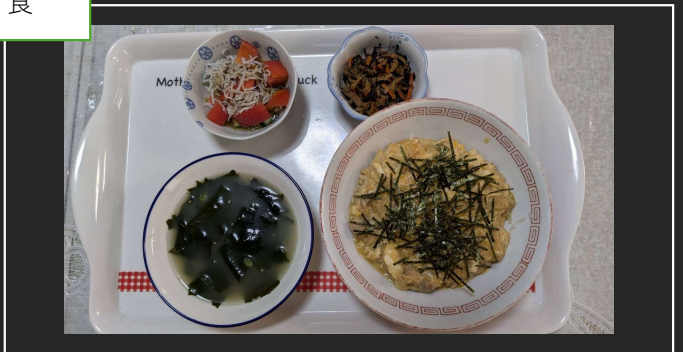
土用の丑の日



日頃の夕食



日頃の夕食





勉強会：自転車講習会



避難訓練

